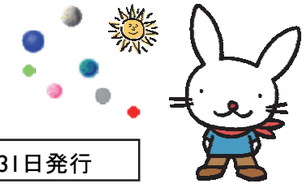
We Love こたつ

日本福祉大学　子ども発達学部ニュースレター

第21号 2019年3月31日発行



この号の主な内容

・「子ども発達学部開設10周年記念シンポジウム」が行われました！ 1
・就職活動体験記　保育士 2
・就職活動体験記　障害児施設
・就職活動体験記　公務員（心理職） 3
・就職活動体験記　小学校教諭
・教育実習体験記　小学校実習
・保育実習体験記　保育所実習 4

「子ども発達学部開設10周年記念シンポジウム」が行われました！

今年度は大学全体の企画の一環として、11月3日に「子ども発達学部開設10周年記念事業・シンポジウム」が行われました。本学部では、開設以来、全国に先駆けた「教職インターンシップ」や保育実習、教育実習などで地域とともに歩んできました。来年度以降、子ども発達学科・学校教育専修に「特別支援教育コース」ができ、また、両学科で新カリキュラムが開始される等、子ども発達学部は進化し続けます。このシンポジウムでは、子ども発達学部のこれまでの歩みとこれからについて、各専修の代表者が基調報告を行いました。その後、退職された先生方や卒業生の発言もあり、大変、充実した会になりました。最後に山本敏郎学部長は、「なにができるようになるか」を明確にした授業設計や、学習目標（到達点）を決めて努力するという目標管理型学習ではなく、子どものなかに学びたいという要求を対話をしながら紡ぎだしていくという、潜在的要求の実現可能性を高める教育の重要性を強調しました。シンポジウムの後は生協で懇親会も行われ、こちらも大いに盛り上がりました。

福祉大は60年を超える保育者養成の歴史があります！

学校教育専修は、福祉に強い教育の専門家を養成します。

心理学の楽しさを知り、被支援者に寄り添えるような学生に！

退職された磯部先生。子ども発達学部設立当初の裏話を話してくださいました。

教育実習体験記　小学校実習

子ども発達学科学校教育専修3年
中塚みのり（なかつか みのり）　愛知県・成章高校出身

4週間の教育実習は長いようで本当にあっという間でしたが、その中にたくさんの学びや気づきがありました。特に授業については実習前から不安が大きかったのですが、実習校の先生方からのご指導と担当学級の子どもたちの協力によって、拙いながらも数をこなし少しずつ慣れていくことができました。

授業実習での一番の学びは、教師の説明の仕方一つが子どもたちのやる気にも影響するということです。これは授業実習後の反省会で指導教官の先生に教えていただきました。その授業では自分の考えた解き方を前に出て発表させたのですが、うまく説明できない子も多く、子どもの説明の後に「今の説明はこういうことだね。」と私が説明し直すということがありました。しかし、勇気を出して前に出て説明した内容を教師がわかりやすく直してしまうと、子どもたちは「どうせ後で先生が説明するから…」と考え、やる気を削いでしまうことになるのです。この考え方は、みんなが理解できるように良かれと思って説明していた私にとってとても衝撃的でした。指導教官の先生には「教師が説明するのではなく理解できたほかの児童にフォローさせると良い」とアドバイスをいただきました。自分の授業がいつの間にか自分の説明中心になってしまっていたことと、そのような細かく行き届いた工夫によって子ども中心の授業が作られていくということを実感し、現職の先生方がいかに子どもたちのことを考えて授業作りをしているかを知りました。

教育実習中、授業準備で帰りが遅くなるなど大変なこともありましたが、休み時間に子どもたちと一緒に遊んで仲を深めたり、初めより授業がうまくなったりと、楽しいこともたくさんありやりがいも感じました。また、指導教官の先生がとても親身に接してくださり、私に付き合って遅くまで居残ってくださったり、子どもたちと真剣に向き合って優しく厳しく指導している様子を見たりして、その姿に憧れ、自分自身の教師を目指す気持ちが実習前よりもさらに強くなりました。目標を再確認するという意味でも有意義なものになった今回の教育実習での経験を、今後の勉強に生かしていきたいです 。

保育実習体験記　保育所実習

初めての保育所実習体験

子ども発達学科保育専修2年
中神彩（なかがみ あや）　愛知県・豊丘高校出身

2年生の2月に、初めての保育所実習を2週間させていただいた。今回の実習で、年齢によって子どもたち同士の喧嘩やトラブルの起こり方、仲裁の仕方に違いがあることを学んだ。乳児クラスでは、主におもちゃの取り合いによるトラブルが多く、言葉で表現することが苦手なため、噛みつき、たたくなどの行動になる。その対応は「順番に使おうね」「貸してって言ってるよ」など、どちらの気持ちも受け止め、それを保育士が言葉にして相手に伝え、どちらも納得できるように支援する方法が多い。しかし、幼児クラスでは、言葉での喧嘩が多くみられた。それを安易に止めるのではなく、先生方は「自分たちで話し合あおう」と子どもたちに伝え、自分たちで解決するよう促していた。言葉での喧嘩ができるということは、言葉で解決し、仲直りができるということでもあるため、そのような支援を行ったのではないか。喧嘩一つとっても、子どもたちの発達を見通した関わり方が必要であることを学んだ。

責任実習では、子どもたちに透明のシートにクレヨンで絵をかいてもらい外に出て空に映す(「お空に絵を描こう」)という遊びをやらせていただいた。写真は、その時のシートである。ここでは私の計画の甘さが浮き彫りになった。子どもへの伝え方が曖昧でどのように行動すればいいのか困っている子どもの様子が見られた。その後の反省会では、先生方から、紙とは違う素材を使うことねらいにしていたにも関わらず、その素材を活かしきれていないと指摘を受けた。反省が多いのは確かだが、最初こそ力加減が分からず描き始められない子もいたが、だんだんとコツをつかみ、絵を描くこと自体は子どもたちに楽しんでもらえたと思う。

先生方は一人ひとりの個性を認識し、それを担任以外の保育士にも共有しており、連携が取れていると感じた。今回の実習の経験を自分の知識、技術として身に着け、今後の実習に活かしていきたい。

シンポジウムの様子。退職した先生や卒業生もたくさん集まってくださいました！

2014年度卒業の大森さん。今は福祉大の職員に。

懇親会乾杯の発声は、柿沼先生！

懇親会も大盛況でした。

就職活動体験記　保育士

子ども発達学科保育専修4年
中川恵美（なかがわ　えみ）静岡県・小笠高校出身

私は、名古屋市の保育職に採用をいただき、幼少期からの夢であった保育士になることができました。大学1年生から地元に帰るのか、大学時代を過ごした愛知で働くのか、それともまた別のところで働くのか迷っていました。一つの候補であった名古屋市は、講義内でお話をして下さった現役保育士の方や、愛知保問研で出会った保育士の方々のお話を聞き、このような先輩方がいる現場で一緒に働きたいという思いが少しずつ強くなっていきました。

採用試験を突破するにあたり、必要なのは自己研究と忍耐力であると、この就職活動で感じました。筆記試験の勉強や論文対策をするのはもちろん大切ですが、勉強よりも苦労したのが面接練習でした。自分の考えや気持ちを相手に伝えることが苦手だったため、面接練習で何が言いたいのかわからなくなってしまい、つまずいてしまいました。そこで改めて自分を見つめ直し、自分とはどのような性格なのか、得意な部分、足りていない部分はどこなのか、物事に対しどのような考えを持っているのかなど時間を使って考え自分を理解していきました。また学習アドバイザーの先生のもとに何度も訪れ、分からないことや悩んでいることなどを相談することで不安な気持ちを何度も立て直すことができました。また、採用試験は一般企業の就活の時期よりも遅いため、周りが就職活動を終えていく中、まだ試験が始まったばかりというような状況でプレッシャーや焦りを感じていました。しかし、家族の支え、先生方の暖かいご指導や一緒に戦っている友人のおかげで最後まで頑張れたのだと思います。

就職活動は長く大変なことも多かったですが、自分を見つめ直し成長できる良い経験になりました。春からは保育士として元気に楽しく子どもたちと過ごしていきます。

採用試験を一緒に戦った友人たち。左端が中川さん。

就職活動体験記　障害児施設

心理臨床学科障害児心理専修4年
杉本青河（すぎもと　はるか）愛知県・椙山女学園高校出身

私は、重症心身障害児が通う保育施設から内定を頂きました。2年生の頃から「未就学児と関わりたい」という漠然とした目標を掲げ、保育施設を見学したり、発達や医療的ケア児に関する勉強会に参加したりしてきました。自分の目で実際にみることで、各施設の特色が明確となり、比較をすることもできるようになりました。また、現場で働く職員さんと一緒に勉強をすることで、その分野の現状や課題をリアルタイムで把握することもできるようになりました。そして何よりも、このような活動によって、私が探している場所は、子どもたちの訓練の場所ではなく、「遊びを通して子どもたちの笑顔が保障される場所」なのだと気づくことができました。

この、譲れない条件に気づくことができたタイミングで出会ったのが内定先です。毎年東京で行われている医療的ケア児に関する勉強会で、講師を務められていた内定先の代表との出会いがきっかけです。連絡先を交換し、さっそく見学に行くことになりました。そこでみた子どもの笑顔はもちろんのこと、子どもに負けないくらいの職員さんの笑顔が印象的でした。子どもと職員さんの笑顔に惹かれ、すぐにアルバイトとして働くことを申し出ました。働くことのイメージを掴むことができた頃、面接を受けることになり、内定を頂くことができました。

就職活動というと、3年生の終わり頃から始めるものというイメージがあると思います。ですが、私は2年生の頃から多くの現場をみてきたことで、譲れない条件に気づくことができ、後の就職活動をスムーズに進めることができました。就職活動を意識せずとも、自分の興味のあることを貪欲に追求する姿勢を大切にすることで、素敵な出会いに繋がるのだと学ぶことができました。

内定先では、医療的ケアを必要とする子どもを含めた、重症心身障害児に活動を提供する保育士として働くことになります。専門性をもった職員であることを自覚し、子どもの笑顔を保障するために学び続けていきたいです。

就職活動体験記　公務員（心理職）

公務員（心理職）の就職活動を振りかえって

心理臨床学科心理臨床専修4年
伊藤彩乃（いとう　あやの）愛知県・東邦高校出身

心理職は中学時代からの希望で家庭裁判所調査官や他の心理職の試験を受けましたが、現実は厳しく不合格でした。試験に落ちた危機感から、公務員以外の就活も行い内定をいただきました。しかし、心理職の思いが強く、就活を続け、最終的に東京の心理職への採用が決まりました。

試験準備は4年生3月から多くの時間をかけ、面接前には、実際に東京に1人で行き、関連施設や役所を見て回り、自治体の良いところや改善点、携わりたい施策をまとめました。面接が苦手だからこそ準備に多くの時間を取りました。面接では、手話サークルの活動を話したこともあり、アルバイトでも部活でもいいので、大学時代に積極的に取り組んだ経験を自分の言葉で表現できることが大切だと感じました。

就活は二度としたくないと思うほど、本当に辛いものでしたが、諦めずにまずは挑戦すること、友人の進路が決まっても流されないこと、同じ目標に向かって頑張る友人と最後まで走り切る大切さを学びました。また、以前はあまり積極的ではありませんでしたが、今では新しいことに挑戦したいと思うようになりました。ここまでできたのは、一緒に公務員試験を頑張った友人、「頑張ってこい」と試験に送り出してくれた家族、試験対策をして下さった先生のおかげです。目標に向かって頑張れば結果はついてくると思います。4月からは新社会人として心が折れないように、忍耐強く、責任感を持って、できることから頑張っていきたいと思います。

就職活動体験記　小学校教諭

子ども発達学科学校教育専修4年
三浦真実（みうら　まさみ）愛知県・国府高校出身

私は愛知県、神奈川県を受験し、両方の県で合格を頂くことができました。3月から少しずつ筆記試験対策を始めました。先の見えない不安から、何も手につかなくなった時もありました。そんな時はなるべく図書館に行くようにし、見通しを持つためにも模試を受けるなどして、自分にプレッシャーをかけモチベーションを高める工夫をしました。試験2週間前に教育実習があることも初めは不安に感じていました。しかし、先生方からお話を聞くことができたり、子どもたちとの関わりの中で改めて教師の魅力を実感することができたりする日々で、不安よりも充実感でいっぱいの2週間でした。支えてくれた実習校の先生方、子どもたちのことを思い出しながら、試験に臨みました。口述試験対策はだいぶ遅れをとり、一次試験終了後から詰め込みました。毎日友人に付き合ってもらい、先生方にもご指導頂きました。時には自分の中の軸を疑い、苦しくなることもありましたが、友人の支えがあって、最後まで軸からぶれずに軸を豊かにしていくことができました。この練習を通して、どんな教師になりたいか、教師になりたいという思いなど、自分自身を振り返ることができました。

これまでの日々を振り返ると、いつも私のことを支えてくれる人たちがいました。一緒に対策をしてきた友人、自主ゼミにおいでよと何度も誘ってくれた同期生、講座で教師の魅力を語ってくれた先輩方、根気強く面倒見てくださった先生方。そして、教師になりたいという夢をずっと応援してきてくれた両親。人とのつながりの大切さを学びました。教員採用試験を受けてみて、先輩方が話されていた「教員採用試験はゴールではなく、スタートだ」という意味が分かったような気がします。今は、子どもたちとの出会いや学校生活に期待でいっぱいです。この期待や人とのつながりを大切にします。出会った目の前の子どもたちと向き合い、共に学んでいきたいです 。